

特記仕様書

特記事項
<p>1. 本工事に使用する環境配慮ブロックについては、別紙「環境配慮ブロック特記仕様書」によること。</p> <p>なお、各ブロック決定の際、当該ブロックの安定計算書を監督職員へ提出し、協議を行うものとする。</p>
<p>2. 本工事においては、出来形が80%となった段階で、完成予想展開図及びこれに基づく数量計算書を監督職員に提出すること。また、甲乙協議の結果により、工事内容が追加、もしくは大きく変更されることが予想される場合には、その工種についての完成予想展開図及びこれに基づく数量計算書を監督職員に提出すること。</p>
<p>3. 工事を行う際には、必要な標識を設置するほか、次に示す事項を表示する工事表示板を設置するものとする。</p> <p>① 工事内容 : 護岸をなおしています、</p> <p>② 工事種別 : 河川災害復旧工事</p>
<p>4. 本工事は災害により被災した護岸を補修する工事であることから、契約後、早急に現地着手するよう検討すること。また、施工前に必ず丁張を設置して監督職員及び地元関係者と立会し同意を得ることとし、完了後に仮設道等の復旧確認を立会して行うこと。</p>
<p>5. 本工事により発生する建設残土は任意処分とし、処分費用と運搬距離10kmの捨土運搬費を計上している。処分費用は明らかに不用になった場合のみ変更する。</p> <p>また、捨土の運搬距離は10kmを越えない範囲で実距離により設計変更を行うため請負者は利用する処理施設を監督職員に報告しなければならない。</p>
<p>6. 工事用道路等、発注時点では大量の購入土が必要な設計としているが、本工事の他、近接する市工事間での建設発生土の有効利用について検討するため、購入前に必ず監督職員と発生土の流用について協議を行うこと。</p>
<p>7. 施工に先立ち、主任監督員と協議し段階確認の種別、確認時期、施工予定時期等を施工管理計画として「施工計画書」に記載して提出すること。また、確認が可能となる日の概ね1週間前までに、確認種別、確認内容等を記載した段階確認書を、監督職員へ提出すること。</p>

環境配慮ブロック特記仕様書(1) 883号左岸

製品	使用可能製品一覧については別紙参照			
基本条件	護岸勾配	0.3		
	最小天端幅 ※4	1.0	m	
	その他			
環境条件	魚巢機能の確保	必要		
	水生生物の対応	必要		
	植生の復元	必要		
	低木の繁茂	不必要		
	水循環の確保	不必要		
	その他			
現場条件	最小施工半径	-	m	
	設計流速	4	m/s	
	想定最大転石径	0.3	mm	
	縦断勾配(河床勾配)	3.1	%	
	感潮域か否か	否		
	最大施工直高	3.11	m	
	輪荷重の考慮 ※1	無		
	上載盛土 ※3	盛土高さ	無	m
		盛土勾配	-	
	路側防護柵 ※2	無		
設置される防護柵の種類()				
その他				
その他条件	基礎の形状	コンクリート基礎		
	中詰め材の種類	現場発生材		
	その他施工における留意事項			

- ※1 輪荷重は10kN/m²(1tf/m²)とする。
 ※2 護岸が道台兼用の場合、衝突荷重が護岸の安定に影響する防護柵(ガードレール等)の設置の有無。
 ※3 護岸背面の盛土で、護岸の安定に影響するもの。
 ※4 施工時の制約条件となる、護岸天端の余裕幅。

環境配慮ブロック特記仕様書(2)

参考製品一覧	1	グリーンヴィット	31		61	
	2	KPブロックスリット 500型 KPブロックスリット魚巢 500	32		62	
	3	彩陣50	33		63	
	4	グリーンビュー	34		64	
	5	グリーンヴィットL	35		65	
	6	ヘイバックFA50	36		66	
	7	彩陣70	37		67	
	8	グリーンヴィットS	38		68	
	9	KPブロックスリット 650型 KPブロックスリット魚巢 650	39		69	
	10	彩陣75	40		70	
	11	環境 600A	41		71	
	12	植生竜陣35	42		72	
	13	植生竜陣50	43		73	
	14	彩陣80	44		74	
	15	彩陣85	45		75	
	16	彩陣90	46		76	
	17		47		77	
	18		48		78	
	19		49		79	
	20		50		80	
	21		51		81	
	22		52		82	
	23		53		83	
	24		54		84	
	25		55		85	
	26		56		86	
	27		57		87	
	28		58		88	
	29		59		89	
	30		60		90	
<p><使用製品選定における注意事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記使用可能製品から受注者が使用製品を選定すること。なお、選定した製品による設計変更は行わない。 ・設計変更は、現場条件(施工面積、延長、基礎形状等)の変更があった場合のみ行う。 ・工事で使用する製品について、護岸の転倒・並進運動・滑動・地盤支持力等について検討した資料を提出すること。 						

環境配慮ブロック特記仕様書(1) 884(A箇所右岸)

製品	使用可能製品一覧については別紙参照			
基本条件	護岸勾配	0.3		
	最小天端幅 ※4	0.7	m	
	その他			
環境条件	魚巢機能の確保	必要		
	水生生物の対応	必要		
	植生の復元	必要		
	低木の繁茂	不必要		
	水循環の確保	不必要		
	その他			
現場条件	最小施工半径	直線	m	
	設計流速	4.2	m/s	
	想定最大転石径	0.3	mm	
	縦断勾配(河床勾配)	3.1	%	
	感潮域か否か	否		
	最大施工直高	2.9	m	
	輪荷重の考慮 ※1	無		
	上載盛土 ※3	盛土高さ	無	m
		盛土勾配	—	
	路側防護柵 ※2	無		
設置される防護柵の種類()				
その他				
その他条件	基礎の形状	コンクリート基礎		
	中詰め材の種類	現場発生材		
	その他施工における留意事項			

※1 輪荷重は10kN/m²(1tf/m²)とする。

※2 護岸が道台兼用の場合、衝突荷重が護岸の安定に影響する防護柵(ガードレール等)の設置の有無。

※3 護岸背面の盛土で、護岸の安定に影響するもの。

※4 施工時の制約条件となる、護岸天端の余裕幅。

環境配慮ブロック特記仕様書(2)

参考製品一覧	1	KPブロックスリット 500型 KPブロックスリット魚巢 500	31		61	
	2	彩陣50	32		62	
	3	グリーンビュー	33		63	
	4	KPブロックスリット 650型 KPブロックスリット魚巢 650	34		64	
	5	ヘイバックFA50	35		65	
	6	植生竜陣50	36		66	
	7		37		67	
	8		38		68	
	9		39		69	
	10		40		70	
	11		41		71	
	12		42		72	
	13		43		73	
	14		44		74	
	15		45		75	
	16		46		76	
	17		47		77	
	18		48		78	
	19		49		79	
	20		50		80	
	21		51		81	
	22		52		82	
	23		53		83	
	24		54		84	
	25		55		85	
	26		56		86	
	27		57		87	
	28		58		88	
	29		59		89	
	30		60		90	
<p><使用製品選定における注意事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記使用可能製品から受注者が使用製品を選定すること。なお、選定した製品による設計変更は行わない。 ・設計変更は、現場条件(施工面積、延長、基礎形状等)の変更があった場合のみ行う。 ・工事で使用する製品について、護岸の転倒・並進運動・滑動・地盤支持力等について検討した資料を提出すること。 						

環境配慮ブロック特記仕様書(1) 884(A箇所左岸)

製品	使用可能製品一覧については別紙参照			
基本条件	護岸勾配	0.3		
	最小天端幅 ※4	0.7	m	
	その他			
環境条件	魚巢機能の確保	必要		
	水生生物の対応	必要		
	植生の復元	必要		
	低木の繁茂	不必要		
	水循環の確保	不必要		
	その他			
現場条件	最小施工半径	-	m	
	設計流速	4	m/s	
	想定最大転石径	0.3	mm	
	縦断勾配(河床勾配)	3.1	%	
	感潮域か否か	否		
	最大施工直高	3.15	m	
	輪荷重の考慮 ※1	無		
	上載盛土 ※3	盛土高さ	無	m
		盛土勾配	—	
	路側防護柵 ※2	無		
設置される防護柵の種類()				
その他				
その他条件	基礎の形状	コンクリート基礎		
	中詰め材の種類	現場発生材		
	その他施工における留意事項			

- ※1 輪荷重は10kN/m²(1tf/m²)とする。
 ※2 護岸が道台兼用の場合、衝突荷重が護岸の安定に影響する防護柵(ガードレール等)の設置の有無。
 ※3 護岸背面の盛土で、護岸の安定に影響するもの。
 ※4 施工時の制約条件となる、護岸天端の余裕幅。

環境配慮ブロック特記仕様書(2)

参考製品一覧	1	KPブロックスリット 500型 KPブロックスリット魚巢 500	31		61	
	2	彩陣50	32		62	
	3	グリーンビュー	33		63	
	4	ヘイバックFA50	34		64	
	5	KPブロックスリット 650型 KPブロックスリット魚巢 650	35		65	
	6	植生竜陣35	36		66	
	7	植生竜陣50	37		67	
	8		38		68	
	9		39		69	
	10		40		70	
	11		41		71	
	12		42		72	
	13		43		73	
	14		44		74	
	15		45		75	
	16		46		76	
	17		47		77	
	18		48		78	
	19		49		79	
	20		50		80	
	21		51		81	
	22		52		82	
	23		53		83	
	24		54		84	
	25		55		85	
	26		56		86	
	27		57		87	
	28		58		88	
	29		59		89	
	30		60		90	
<p><使用製品選定における注意事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記使用可能製品から受注者が使用製品を選定すること。なお、選定した製品による設計変更は行わない。 ・設計変更は、現場条件(施工面積、延長、基礎形状等)の変更があった場合のみ行う。 ・工事で使用する製品について、護岸の転倒・並進運動・滑動・地盤支持力等について検討した資料を提出すること。 						

環境配慮ブロック特記仕様書(1) 884(B箇所右岸)

製品	使用可能製品一覧については別紙参照			
基本条件	護岸勾配	0.3		
	最小天端幅 ※4	0.7	m	
	その他			
環境条件	魚巢機能の確保	必要		
	水生生物の対応	必要		
	植生の復元	必要		
	低木の繁茂	不必要		
	水循環の確保	不必要		
	その他			
現場条件	最小施工半径	-	m	
	設計流速	3.3	m/s	
	想定最大転石径	0.3	mm	
	縦断勾配(河床勾配)	1.6	%	
	感潮域か否か	否		
	最大施工直高	3.38	m	
	輪荷重の考慮 ※1	有		
	上載盛土 ※3	盛土高さ	無	m
		盛土勾配	—	
	路側防護柵 ※2	無		
設置される防護柵の種類()				
その他				
その他条件	基礎の形状	コンクリート基礎		
	中詰め材の種類	現場発生材		
	その他施工における留意事項			

- ※1 輪荷重は10kN/m²(1tf/m²)とする。
 ※2 護岸が道台兼用の場合、衝突荷重が護岸の安定に影響する防護柵(ガードレール等)の設置の有無。
 ※3 護岸背面の盛土で、護岸の安定に影響するもの。
 ※4 施工時の制約条件となる、護岸天端の余裕幅。

環境配慮ブロック特記仕様書(2)

参考製品一覧	1	KPブロックスリット 500型 KPブロックスリット魚巢 500	31		61	
	2	プロテクトⅢ 500型	32		62	
	3	ビオトーンⅡ型 500	33		63	
	4	グリーンビュー	34		64	
	5	バイオグリーンⅠ 50型(標準型)	35		65	
	6	KPブロックスリット 650型 KPブロックスリット魚巢 650	36		66	
	7	ヘイベックFA50	37		67	
	8	プロテクトⅢ 650型	38		68	
	9	バイオグリーンⅠ 50型(魚巢型)	39		69	
	10	ビオトーンⅡ型 650	40		70	
	11	植生竜陣50	41		71	
	12	ビオトーンⅠ型 500	42		72	
	13	ふる里50型(空積)	43		73	
	14	ビオトーンⅠ型 810	44		74	
	15	ふる里50型(練積)	45		75	
	16		46		76	
	17		47		77	
	18		48		78	
	19		49		79	
	20		50		80	
	21		51		81	
	22		52		82	
	23		53		83	
	24		54		84	
	25		55		85	
	26		56		86	
	27		57		87	
	28		58		88	
	29		59		89	
	30		60		90	
<p><使用製品選定における注意事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記使用可能製品から受注者が使用製品を選定すること。なお、選定した製品による設計変更は行わない。 ・設計変更は、現場条件(施工面積、延長、基礎形状等)の変更があった場合のみ行う。 ・工事で使用する製品について、護岸の転倒・並進運動・滑動・地盤支持力等について検討した資料を提出すること。 						